

在沖米国総領事の発言に対する抗議決議

去る9月4日に行われた就任後初の記者会見において、アルフレッド・R・マグルビー在沖米国総領事は、米軍基地普天間飛行場について、「特に危険だという認識はない」「世界一危険という表現がどこから出たのかわからないが、一人歩きしている。その認識は全くしていない」「歴史の流れの中で、どうして普天間飛行場の周りに住宅地が密集したのか不思議だ」という発言をした。

総領事には、歴史や文化への適切な理解の下、相互尊重を土台に関係国・地域との良好な関係を築く重要な責務があり、特に全国の米軍専用施設の約74%の基地を押し付けられている本県においては、基地に対する沖縄の民意を理解し、本国に伝える役目があるのは言うまでもない。

今回のこの発言は、強制的に土地を接収され住民を排除して基地が形成された沖縄戦後史に対する理解の乏しさ、並びにこれまでの歴史的経緯を全く認識していないことを露呈するものであり、一日も早い米軍基地普天間飛行場の閉鎖、返還を切に願ってきた宜野湾市民の心を著しく踏みにじるものである。

また、マグルビー在沖米国総領事は、オスプレイの安全性についても、「安全といえる。オスプレイの経験の長いパイロットも慣れれば乗りやすい、飛びやすいといっている」と発言するなど、オスプレイ配備に反対する宜野湾市民及び沖縄県民の総意を冒瀆するものであり、断じて容認できるものではない。

よって、本市議会は、今回のマグルビー在沖米国総領事の発言が沖縄県民の願いと民意を全く無視し、愚弄するものにほかならず、到底許しがたいものであることから、マグルビー在沖米国総領事本人、米国務長官及び駐日米国大使に対し、マグルビー在沖米国総領事の発言撤回と宜野湾市民及び沖縄県民への謝罪を強く要求する。

以上、決議する。

平成24年9月27日

沖縄県宜野湾市議会

あて先：米国務長官、駐日米国大使、在沖米国総領事